

研究の概要

助成年度・種別	2014年度 若手研究助成
研究者	小泉 径子
所属	大阪大学大学院連合小児発達学研究科 福井校
研究テーマ	被虐待児の利他主義者見極め能力に対するオキシトシン投与の有効性の検討
研究の概要 (助成申請書の要約)	<p>社会において他者の人間性を正しく理解することは重要である。フランクは利他主義者は利己主義者が真似することのできない何らかのシグナルを他者に向けて発しており、人々はそれを読み取ることができるために、利他主義者と利己主義者を弁別することができる」と主張している。これまで多くの実験研究によって、人々は見知らぬ他者の利他性を判別できることが示されている。</p> <p>しかし、利他主義者の見極めの能力には個人差がある。被虐待経験のある人々は成長後も性犯罪や暴力等の被害に遭いやすいと言われていることから、他者の利他性を検知する能力に困難があることが予想される。近年、オキシトシンがコミュニケーションの治療改善薬として期待されている。オキシトシン投与によって他者への感受性が増大することで、利他主義者の発する特有のシグナルに敏感になり、見極めの能力が改善することが期待される。</p> <p>本研究では被虐待経験を持つ子どもと虐待を受けていない子どもの他者の利他性検知能力の比較を行うほか、オキシトシンを投与し、利他主義者の見極めにどのような影響が出るかを検討する。</p>
選考委員からのコメント	<p>被虐待体験を持つ子には、犯罪被害に遭いやすさとも関連する「他者の感情を読み取る能力」が十分発達していない面があるとし、オキシトシン投与による改善の可能性を研究する。実験段階での医学的に慎重な配慮も見られ、効果の有無は非常に注目される。</p>